

P T A本来の 願い・目的に向かつて

研究大会事務局長

西 口 昌 司

今年度の函館市P T A連合会研究大会は、新型コロナウイルスによる感染者数が市内で連日三百人を超え、子供たちへの感染拡大が危惧されたため、会場での開催から、書面での開催に変更しました。

子供たちの安全面が脅かされ、家庭や学校が疲弊する中、会員の皆様や各校事務局の皆様から、「なぜ、もっとスピード感をもって子供たちが安心安全に過ごせる方向にシフトできないのか」などのご要望が相次ぎました。大会事務局校として学校現場や家庭の窮状、子供たちが直面している状況等を関係各所と共有を図ってきましたが、結果的に開催まで一カ月を切った中で急な変更となりましたことを、心よりお詫びいたします。

コロナ禍におけるP T Aは、今まで以上に「子供たちの幸せのために、安心安全に家庭や学校で生活することを支え合う」ことが求められています。今後も、前例や慣例にとらわれず、P T A本来の願いや目的を中心に据えた大会運営について、私たち一人一人が問い続けていく必要があると考えています。

さて、今年度は、分科会の開催年度であったため八校から大変貴重な資料提供をいただきました。日常の子供たちの学びの充実と感染症対策の両立に心を砕きながらの資料作成は、多くの時間とエネルギーを費やしたことと思われま

いただきます。本研究大会の改善につながる貴重なご意見をお寄せいただきました。本原稿の作成時点で次年度以降の事務局校は不明ですが、改善の焦点化や引継ぎについても力を尽くしていきます。

本研究大会の運営とともに、今後のよりよい大会の実施に向けてご尽力いただいた全ての皆様様に心から感謝申し上げます。

【研究大会アンケート結果】

項目	よい	普通	要改善
1 内 容	75.4%	15.8%	8.8%
2 書面開催	91.2%	7.0%	1.8%
3 運 営	84.2%	12.3%	3.5%
4 日 程	40.4%	17.5%	42.1%
5 準 備	80.7%	8.8%	10.5%

① 「内容」について

【事務局校によるまとめ】

- ・ 新型コロナウイルス感染症が急拡大したため、「書面開催」に変更したことが約七十五%から肯定的に評価された。
- ・ 研究大会の「縮小」や「提言の撤廃」、「講演会のみ開催」、「負担軽減策の具体化」

等について要望があった。

② 「書面開催」について

- ・ 約九十一%が書面開催を支持した。
- ・ 感染症の急増時における学校現場は、学級閉鎖及び学年閉鎖や教職員の出勤停止等による人員不足の状態に陥るため、書面開催による実施が圧倒的多数の支持を受けた。

③ 「運営」について

- ・ 開催方法を変更する決定が遅れたため、多くの学校関係者からご要望を受けたが最終的には感染リスクが危惧される会場開催を中止したため、約八十四%から肯定的に評価された。

④ 「日程」について

- ・ 実に約四十二%が、「現在の日程は改善を要する」を選択。過去に例のない多数の皆様からの改善要望を受けた。
- ・ 日程改善に関する記述内容から、九月の第一週目の実施は避けることが望ましいとの意見が多数を占めた。
- ・ 九月の第一週目は変更が望ましいことについては昨年度のアンケート結果や「P T Aはこだて」にも記載されていた。そのため、複数年度にわたる課題として、改善について前向きに検討していただきたいとの要望が多く見られた。

⑤ 「準備」について

- ・ 感染症急拡大の情勢を深刻に受け止めた市P 連事務局の英断により、書面開催とともに当番ブロック校の帳合い作業を中止にするなどの取組が高く評価された。

⑥ 「意見・感想・要望など」について

- 感染者が急増していたため、書面開催に変

更となつて安心した。

○ コロナ禍における最大の学びである持続可能な子供の成長を支えるというP T A本来の目的に目を向けることができた。

○ 休息が必要な日曜日の開催を避け、土曜日の開催に変更していただきたい。

○ 開催は、九月ではなく、十月・十一月に変更していただきたい。

○ 提言はカットし、講演会中心で開催していただきたい。

○ 働き方改革等の時代に応じた内容や時期の見直しを行い、誰もが加重負担にならない方法をぜひ検討していただきたい。

○ 大会の担当者や参加者の負担にできるだけ配慮していただくことが、参加者の増加や各校での成果につながると考える。

⑦ まとめにかえて

今、子供たちを真剣に応援している皆さんは子供たちの幸せと感染症対策の両立に心を砕き、終わりの見えない状況においても粘り強く関わっています。学校や家族内の感染も確認されています。しかし、不安感が高まりやすいこのような時だからこそ、子供の心に感情移入し、子供の近くで安心感を高める真に寄り添う時間が強く求められています。

「P T A本来の目的は、大人が子供に寄り添い、成長を支える時間を保障すること」このことを皆さんと共有し合えたことが本大会の一番の収穫となりました。本研究大会の開催に向けてご尽力いただいた全ての皆様様に心から感謝申し上げます。

